

6 土壌の改良と管理

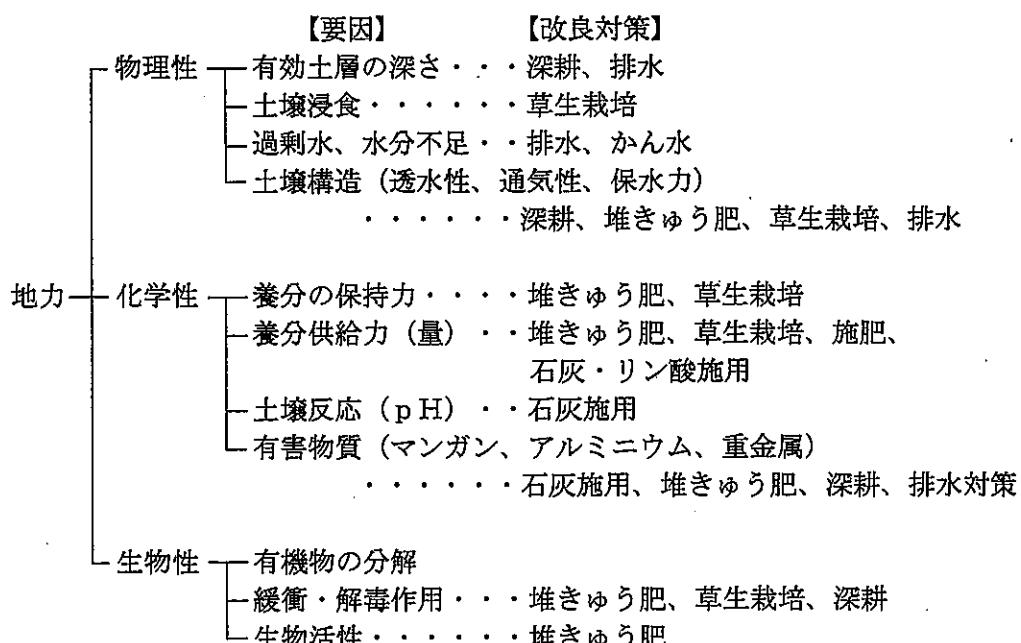
土壌が持つ様々な特性は、互いに相助的あるいは競合的に作用し合っている。従って、土壌改良や管理を総合的に行い、土壌のバランスを適正に保つことが重要である。

土壌診断を活用しながら、新植及び改植時には大規模な改良を徹底的に行い、既存園では土壌の性質の悪化防止対策を行う。

① 土壌の性質と土壌改良目標値

(1) 土壌の性質と土壌改良目標値

土壌の性質は生物性、化学性及び物理性の3つに分けられるが、りんご栽培において、それぞれの性質を構成する要因とその改良対策をあげると下図のようになる。



第II-43図 土壌の性質、要因と改良対策

土壌改良目標値は下表のとおりである。

第II-33表 土壌改良目標値

項目		火山灰土壌	非火山灰土壌
主要根群域の深さ		60cm以上	
主要根群域の最高密度		22mm以下	
地下水位		地表下 100cm以下	
pF1.5の気相率		15%	
pH (H ₂ O)		6.0	
pH (KCl)		5.5	
塩基交換容量 (CEC)		20me 以上	
交換性塩基	塩基飽和度	60%	80%
	石灰飽和度	45%	65%
	マグネシウム (MgO) カリ (K ₂ O) MgO/K ₂ O (mg含量比)	40mg/100g (乾土) 28mg/100g (乾土) 1 以上	